はくぶつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM　'87 2月号

☆行事案内☆

2月

7	土	古文書講読会
14	土	土曜観察会（金目川を歩く）
〃		石仏を調べる会
15	日	自然観察会（厚木・七沢）
21	土	古文書講読会
〃		土曜観察会（金目川を歩く）

・寄贈品コーナー

1～27　民俗部門

・プラネタリウム

～22　ハレー彗星Part4

3月

7	土	古文書講読会
〃		土曜観察会（金目川を歩）
14	土	石仏を調べる会

・移動博物館

2／28～3／1　花水公民館　平塚の野鳥展

3／14～3／15　神田公民館　身近な自然観察展

○みんなで調べよう　平塚のカエル

・内容　アマガエル、ヒキガエルなど平塚市内に生息しているカエル類の分布を、参加者で地域を分担して調査します。姿の見分け方、鳴き声のちがいなどについて、実習の機会がありますので、予備知識は必要ありません。

・期間　87年の4月～6月を第一期の調査期間とし、各自、都合のよい日に調査をして頂きます。

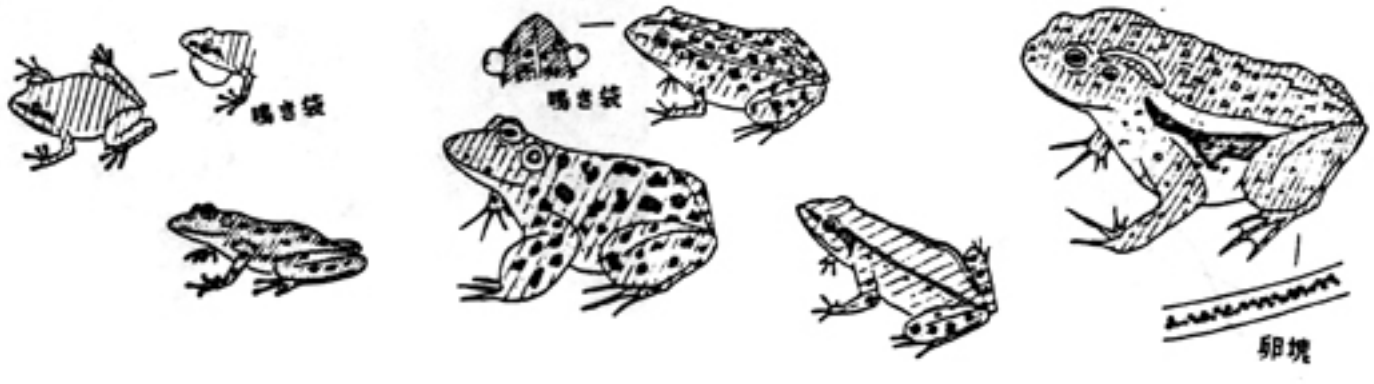
・ガイダンス講演会

3月29日（日）午後1時～

「カエルの生活」　丸山一了氏

この日は調査方法の説明、地域の分担などの打合せも行います。

・申しこみ　3月10日までに往復ハガキで。小学生以下は保護者の協力が得られる方に限ります。



暮らしの暦

1日：オタナサゲ：シメ飾りをはずし、稲荷祠の前でオタキアゲする。

節分：

（ヤツカガシ）：鰯の頭をやいて柊の枝にさし通し、玄関の柱につけておく。悪いものが入ってこないようにのまじない。この柊も「くさいくさいヤツカガシ」ととなえつつ、火にかざすのである。

（豆撒き）：鬼は外、福は内、鬼の目をぶっつぶせ。大豆を神棚に供え、おろして屋内に撒き、あと神社や近くの稲荷祠や道祖神にも撒きにゆく。

（トシコシ）：冬の終り、春の初めという意味で年越し。トシコシソバを打ち、自分の年の数だけ豆を食べる。

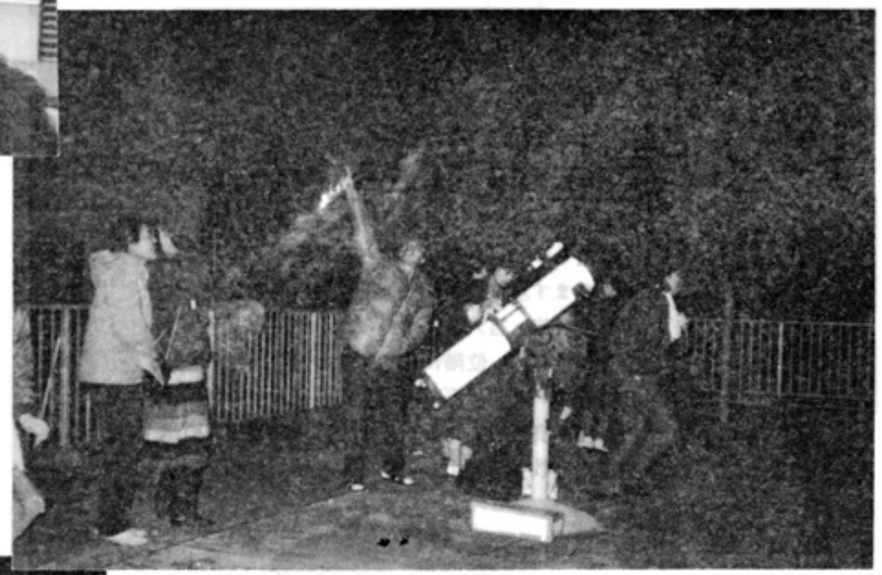
初午（ハツウマ）：お稲荷さんに油揚げなんかあげてご馳走を食べる。丁寧には赤いご飯を炊いてワラゾトに入れ、魚をそえて供える由。

8日：目一つ小僧の来る日。竿の先に目龍を伏せ庭先きに高く揚げる。妖怪！目一つ小僧が来るから身を慎しむ日。目一つに対し、目だらけの目龍で抗したとも、竿の天辺に高くかかげるのは依代だとも、諸説あり。

同じ日：針供養：下島の淡島神社。淡島様は住吉神の妃神、姫神様。下の病いをいやされるほか縁結び、子授け、安産などの効あらたか。古くから婦人層の信仰が厚かった。

星を見る会「上弦の月と冬の星座」
・1月7日(水)17時30分～19時

「お月様はある齢までくると、それ以上齢をとりません。それはいくつでしょう」の問いに勢よく手が上った。15さーいが15人、30才が5人、少しおくれてやっぱし28かなァと1人。わかんない人が4人。学芸員鳳さんの説明はこうである。三日月で3才、半月で7～8才、満月で15才。そこから欠けて半月が22～23才、更に欠けて逆の三日月が26～27才、全部なくなって30才くらいかなァ。正確にはね、月は29.5才以上は齢をとらない。この先はまた三日月になっての繰り返しなんだよ。明治5年まで使った暦は、月の動きからつくった暦で、1週間というのも7日で半月になるところから出来たんじゃないかと考えられているんだ。新月から新月までがひと月、ついたちの"つい"は"月"のこと。"つきたち"で月が出始めたという意味なんだねえ」。みんなの頭がコックンとうなづく。今日見る星はぎょしゃ、オリオン、カシオペヤ、おうし座。



木星とその4つの衛星も見えるという。屋上には3台の望遠鏡があった。望遠鏡をセットしてくれたのは、天体観察会のメンバーで、この日もライトで誘導したり説明してくれたり。望遠鏡のまわりで次々に歓声が上る。木星の縞模様もその衛星も、月のあばたも手に取るよう。20代でUターンじゃ、にきびの跡も治れないねと言える近さである。どでかい宇宙に地球はゴマ粒みたいなものかも知れないけど、これもあれも銀河系の仲間なら、連帯と相互のかかわりあいこそ21世紀の信条であろう。グローバル・ハウスキーピング！ ゴマ粒でも出来ることはあるンだ。

次にのぞいた半ズボンの男の子が言いました。「僕はきっとゆくよ。今は駄目だけど、もっと大きくなったら」。小学1年生だそうです。

「2月3日（火）20時58分に火星食あり」沢村さん発の伝言です。

（和田）

ここが見どころ

奈良・平安時代のくらし

ー農民と豪族ー

※二階展示コーナー 20

支配・被支配の関係が完成されたものが律令制です。奈良時代は律令制が整い、天皇を中心とする中央集権国家であるのに対し、平安時代は律令体制が解体し、地方の豪族が台頭してくる時代です。展示では豪族と農民の生活具を対比することによって、この時代の様相を考えて見ました。

官衙の存在　右の土器は平塚市四之宮高林寺第三地点から出土した墨書土器で「曹司」と書かれています。曹司は国務を分掌する役所に伴う官舎を意味します。この墨書土器から官衙的施設の存在が考えられます。最近の周辺の調査からも十分にその可能性を裏づける資料が出土していることから、相模国府の所在地が問題となっています。

ともに官衙の存在を証明する基本資料です。

特殊な土器　右の土器は中原上宿遺跡から出土した緑釉陶器で内面に花文が施され、愛知県の猿投窯で焼かれたものです。緑釉陶器は出土量の少ないこと、特殊な性格をもった遺跡から出土することから、日常の食器ではなかったようです。つまり、祭祀などの特別な場合に使用されたと思われます。もちろん所有者は豪族や官人層であり、農民とはかけ離れた存在のものでした。

縄文・弥生・古墳時代から歴史時代へと人は自然や人とどのような係わりをもって生きてきたか遺物を通して、様々な視点から分析するのも、現代社会を理解する方法かと思います。　（明石）

官位を示す石帯　左の資料は四之宮下郷遺跡から出土したもので、石帯と呼ばれています。革帯につけるもので、石製の石帯と金属製の銙帯と２種類あります。使用された時期は異なりますが、いずれも貴族・官人層に用いられ、養老衣服令（７５７年）には、位階によってその内容が細かく規定されています。石帯の出土は、官人層の存在を実証する資料の１つといえます。四之宮周辺の遺跡群から数多く出土していることは、墨書土器と

「はくぶつかん」　Vol. 11　No. 10　通巻 126 号　印刷　平塚市総務部総務課文書係　○300〃
発行　平塚市博物館　〒254　平塚市浅間町12－41　Tel,33- 5111